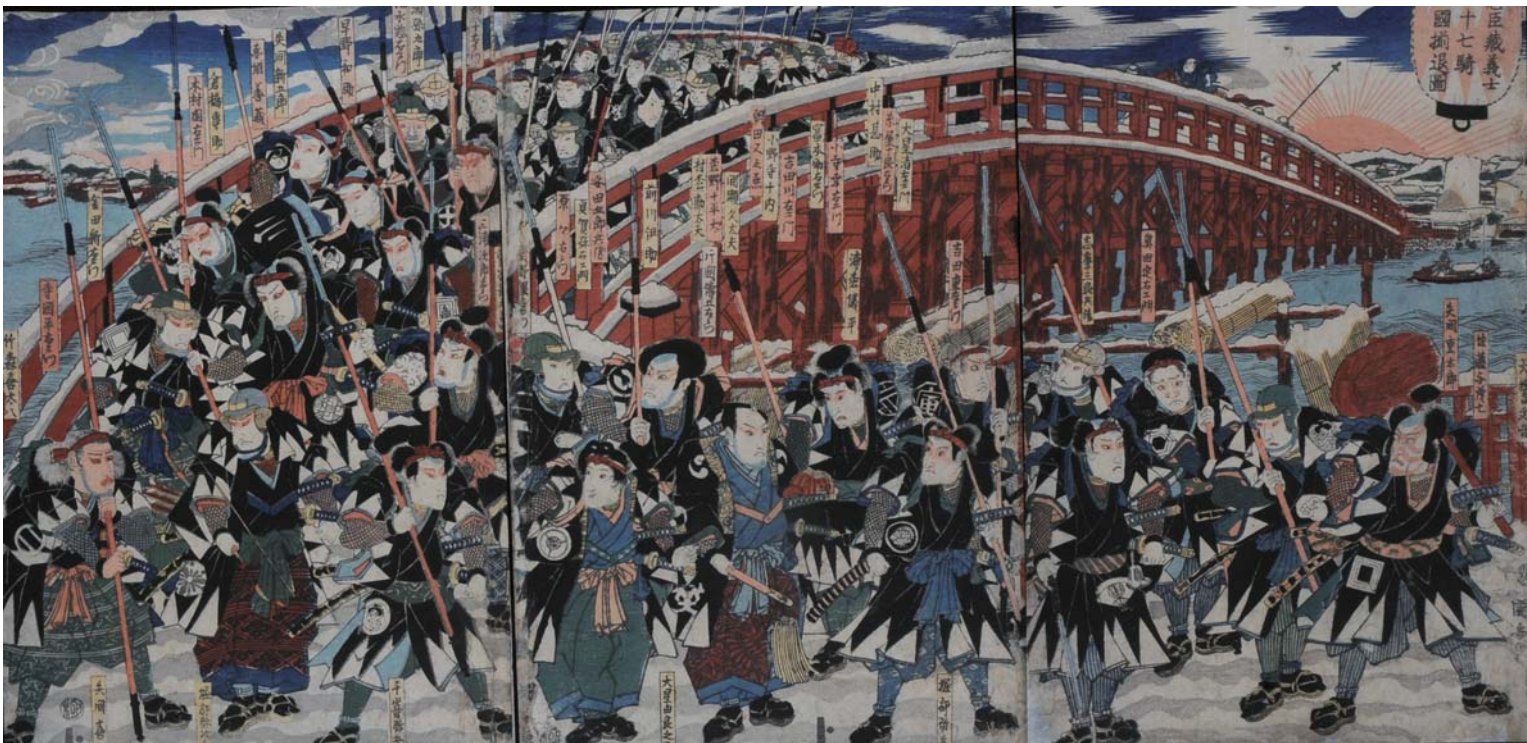


元禄15年(1702)閏8月11日
武林唯七から渡辺半右衛門宛の手紙

特集展示

忠臣蔵の浮世絵と赤穂義士の手紙

2015年12月5日(土)～2016年1月17日(日)まで



歌川国安画 忠臣蔵義士四十七騎両国揃退図

- ・休館日：月曜日・第4火曜日(ともに祝日の場合は翌日)・12/28～1/2
- ・時間：午前9時～午後5時 *入館は4時半まで
- ・入館料：個人100円・団体(20名以上)80円・中学生以下と身体障害者手帳
・精神障害者保健福祉手帳・愛の手帳・療育手帳をお持ちの方は無料

墨田区向島 2-3-5 TEL03(5619)7034
すみだ郷土文化資料館

特集展示

忠臣蔵の浮世絵と赤穂義士の手紙

元禄15年(1702)12月14日夜七つ時前(午前四時前)、本所松坂町にある吉良上野介邸に大石内蔵助が率いる赤穂浪士47士が討ち入りました。前年9月、吉良邸が江戸城外堀内呉服橋たもとから本所松坂町に移されていたことから、本所がこの歴史的イベントの舞台となりました。

浪士たちの討ち入りは、幕府による浅野内匠守の切腹の処断が下されたあと、赤穂城明け渡し、お家の再興、吉良家への処分、困窮する浪士たちの生活、当初からあった藩士内の身分の相違、意見の違い、遺される者への気遣い等々、さまざまな要因が複雑に絡み合うなかで、最終的に47人が討ち入りをおこ

なうという結果に至りました。また、浪士たちの処分をめぐる、幕府内でも議論がおこなわれ、後世の学者による論争もおこなわれています。

今回の特集展示では、開館以来収集してきた浮世絵と赤穂義士の手紙を展示します。普通なら江戸時代初期の手紙はそう多くは残りませんが、事件が事件だけに当事者の手紙がかなり残されています。しかし、当人の真蹟しんせきが多く残っているわけではなく、ほとんどが写されて伝わっています。今回の展示では、これらの手紙を、内容を検討したうえで、歴史的資料として展示します。

■案内図および交通機関



□東武伊勢崎線

「とうきょうスカイツリー」駅より徒歩約7分

□都営浅草線「本所吾妻橋」駅より徒歩約8分

□区内循環バス北西部ルート

「見番通り入口」停留所より徒歩約5分

すみだ郷土文化資料館

墨田区向島2-3-5

Tel 03(5619)7034 Fax 03(3625)3431



浮世絵『誠忠義士伝』「武林唯七」当館蔵